Annual Report

2021 WAPPINESS

SPECIFIED NONPROFIT CORPORATION
WAPPINESS

2021年度の振り返りとわぴねすが向かう先

2021年の振り返り

日本からハンセン病コロニーの人々をサポート

2021年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により国内のみで活動を行う1年となりました。2年以上ワークキャンプを実施しなかったのは、団体設立以来初めてのこととなります。わぴねすが活動する西ベンガル州ではロックダウンが続く中、高学年を優先に順次学校が再開したり、人数制限を設けて公共交通機関やレストランなどの利用が再開したり、少しずつ日常を取り戻しています。コロニーの人々の就労状況もコロナ前に戻りつつあり、TOTOレンタルをしている人の収入はコロナ前と比べ、約6割程度に回復しました。しかし、長期にわたり収入が減ったため、貯蓄も使い果たしてしまった家庭が多く、病気やケガの治療費を工面することが困難な状態にあります。そこで、支援者様のご厚意もあり、わぴねすでは2021度より緊急支援基金を設立し、そういった方々へのサポートも始めました。今後、いつまでこのような状況が続くかわかりませんが、常に自分たちができることを模索して参ります。

わぴねすが向かう先
～ミッションの再定義～

わぴねすの”今”を見つめなおし、”未来”を創造する

新型コロナウイルス感染拡大を受け、わぴねすはインド渡航を中止しています。2020年4月以降、活動の主軸であったワークキャンプを停止し、日本国内からインドハンセン病コロニーを支援する方法を模索しながら実施してきました。
活動スタイルを変化させるにあたり、わぴねすは団体が目指す方向を見つめ直しています。2021年度はこれまで掲げてきた理念・ミッションの棚卸しをし、改めて共通認識（下図を参照）を持つことが出来ました。今後は、目標を達成するまでの道筋と行動計画を策定して参ります。

理　念

すべての人々が、いきいきわくわく暮らすことのできる社会を創造する

= 『人として生きることの喜び』を誰しもが享受できる社会
一人ひとりが、 互いに向き合う社会　認め合う社会

ミッション

ハンセン病による“差別”と“貧困”を過去に、“尊厳”と“希望”を今と未来に

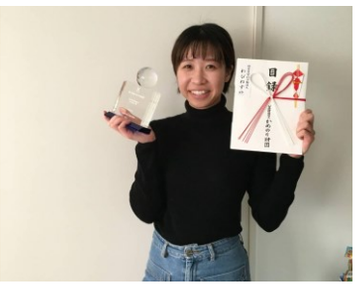
過去に		今と未来に	
差別	貧困	尊厳	希望
ハンセン病を理由に 不当な扱いを受けない状態	物乞いをしなくても 人として最低限の生活が 出来る状態	個人が ありのままの存在として 受け入れられる状態	将来に期待し、 挑戦できる状態
解消	解消	実現	実現
■ コロニー出身であることを理由に就労・教育・結婚が制限される ■ 買物の時、モノを売ってくれない、お釣りを投げて渡される ■ 「差別を受けている」「差別されても仕方ない」と感じている	■ 物乞いをしなくては生活できない ■ 貧困ライン（$1.9/日）を割っている ■ 家族の生活費が足りていない ■ 子どもの教育費が足りていない	■ 毎日の暮らしの中で、社会の一員であることを実感できる ■ コロニー出身であることを理由に、教育・就労を不当に制限されない	■ ハンセン病を理由に夢を諦めることが無くなる ■ 子どもたちへの教育に時間とお金を割ける

2021 TOPICs

かめのり賞　表彰

公益財団法人かめのり財団様主催　第15回かめのり賞にて特別賞を受賞しました！
2022年1月8日に開催された「かめのりフォーラム2022」ではパネルディスカッションに参加させていただき、同じく受賞された3団体様の活動に対する姿勢やこれまでの取り組みに刺激を受けました。引き続き頑張っていきます！

（かめのり賞とは…日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰）

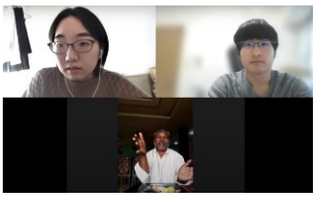


プロジェクト

New! 村人史プロジェクト

インドハンセン病コロニーに住む方々にインタビューをし、「子供の頃の話」「コロニーに来た経緯」などをまとめた「村人史」を作成、サイトで公開しています！日本人キャンパーから大人気のチョンチョンさんは親がハンセン病になったことでコロニーに移り住んできました。当時は政府の支援などは一切なく、ゴミ拾いや物乞いで何とか暮らしていたとのことです。これまで聞くことが出来なかった話など盛りだくさんです。

これからも様々な人にインタビューをして、村人史を掲載予定です。乞うご期待！



オンラインでのインタビュー

New! 図書館プロジェクト

コロナ禍で学校に行く機会が少なくなってしまったコロニーの子供達に文字に触れる機会を増やしてもらうため、日本から絵本を送ります！カラフルな色使いと情緒豊かな日本の絵本をベンガル語に翻訳してコロニーの子供達に届けます。過去のワークキャンプでも同様に絵本を届けていますが、本プロジェクトではより教育にフォーカスし、読書を通じて子供達の学習をサポートします。本の選定や配送手配、学習方法・管理方法の検討などをわぴねすのワークキャンプ事業部・namaste! に所属する学生メンバーと共に行う共同プロジェクトです！

前回絵本を届けた時の様子

New!緊急支援基金設立

わぴねすが活動するインドハンセン病コロニーにおいて、病気や怪我などで入院をしてしまった方がいる家庭などにお見舞金を渡す制度を設立しました！
本制度はわぴねすのサポーターの方のご支援により、基金が創設され、そこからお見舞金を拠出する形となります。
医療費負担の一部軽減が見込める程度ですが、下記の条件でお見舞金をお渡しします。

【お見舞金の条件】
入院をした人がいる家庭　Rs.3,000（約5,000円）
家族が亡くなった家庭　　Rs.5,000（約8,000円）

ビシュナプールコロニーに住んでいる方が体調を崩し、入院したため、ご家族へお見舞金をお渡ししました。

namaste!による名古屋大学での授業

namaste!が、名古屋大学の国際開発学の授業の一コマをお借りし「知ろうとすることの大切さ」をテーマに発表を行いました。namaste!メンバーも大学生。同世代の名古屋大学の学生の方々に向けて、ハンセン病による差別の歴史やこれまでのnamaste!の活動について活動に携わる学生の視点からお話しさせていただきました。知ってもらうため、そして活動の輪を広げるため、今後も積極的に講演活動を行っていきます。講演依頼お待ちしております！

授業を担当する先生との打ち合わせ

就労支援事業

新型コロナウイルス発生からこれまで

2020年から発生している新型コロナウイルスの影響を受け、2020年4月頃からTOTOレンタル事業、マイクロローン事業共にレンタル料やローンの回収を停止していました。当初の想定では2021年の半ば頃からローンやレンタル料の回収を再開する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響は長引き、それにより支援対象事業者の収入も厳しい状況が続いています。2022年4月、ようやくインド西ベンガル州において正式に規制解除が宣言され、経済の回復が見込まれる状況になりました。

TOTOメンテナンスを実施しています！

新型コロナウイルスの影響でレンタル料の回収はしていないものの、TOTOは稼働しているので定期的なメンテナンスが必要になります。
特にバッテリーやタイヤは毎年交換が必要です。また、その他修繕に関してはドライバーの方と協議したうえで実施しています。

TOTOドライバーの収入

2020年の新型コロナウイルス流行直後から比較するとドライバーの収入も少しずつ伸びてきています。

（コロナ直後）	（現在）
Rs.0~100 /日	Rs.150～300/日

バッテリー交換の様子

修理が必要な状況の座席シート

新規ドライバーのご紹介

新しい職が見つかり、TOTOドライバーの仕事を卒業した方がいたため、1台TOTOが余りました。そこで新たなドライバーを募集した結果、バウリーさんにわぴねすのTOTOを利用してもらうことが決定しました。

VOICE ロキシミカンタ・バウリーさん@ナバジバンプールコロニー

私は2人の娘と妻の4人家族です。元々バンドライバー（自転車タイプ）をしていて、Rs.2,000/月ほどの収入でした。収入が少なく、生活が苦しかったうえ、人力タイプのバンドライバーだったため、毎日身体中が痛かったです。しかし、TOTOドライバーとして働くことが出来てから生活は一変しました。身体的な痛みがないうえに、収入も増えました。このようなチャンスを頂けてとても有難いです。

2022年度の目指すところ

就労支援事業はこれからも拡大を続けていく予定ではありますが、2022年度はまず事業の再開（レンタル料やローンの回収）を目指します。しかしながら、コロナ前の収入状況に回復したわけではないため、TOTOドライバーに関しては収入状況をしっかりモニタリングしながら、当初のレンタル料の一部を支払ってもらいます。ローン事業に関しては今後の返済計画の策定を、コロニーの人たちと一緒に考えていくところから始めていきます。

食糧支援プロジェクト

食糧支援プロジェクトとは

新型コロナウイルス感染拡大を受け、インドでも政府によるロックダウン（都市封鎖）が行われました。これにより多くの日雇い労働や物乞いで生計を立てているハンセン病コロニー住民は収入を得られず、食糧不足に陥っています。食糧支援プロジェクトでは、パンデミックの長期化により困窮した世帯を対象に、生活必需品の物資支援を行いました。2021年度は22コロニー1,573世帯への支援を実施しました。2020年度からの支援と合わせて、計3,178世帯への支援が完了しました。また、現地協力団体Goonjより潰瘍手当キットも追加され、医療面でのサポートを必要としている世帯へ届けることができました。　（配布した一世帯約700円のキットは、4人家族の食事1週間程度になります）

【クラウドファンディングへのご協力の御礼】

2021年5月末から7月にかけて実施したクラウドファンディングでは 184名 の方より1,036,700円、また同期間中に団体に直接頂いた支援は 21名 の方より 212,180円、総計 205名 の方から総額 1,248,880円 をご支援いただきました。皆さまの多大なるご支援・応援のおかげで、本プロジェクトを実施することができました。心より感謝申し上げます。

食糧支援、潰瘍手当キットをひとまとめにした袋

支援キットの配布をしている様子

コロニーの人々の雇用・コミュニティ貢献活動の実施

本プロジェクトでは、現地協力団体のほかにハンセン病コロニー出身者を雇用し、現地での配布作業に取り組んでいただきました。また、支援キットを受け取った人によるコミュニティ貢献活動を実施しました。無償で支援キットを提供することに終始せず、自らができることをコミュニティに還元する体制をとることで、支援者・被支援者という関係ではなく、活動に見合った対価を受け取っている・自分たちの村のことは自分たちでなんとかする、という意識を持ってもらうことを目指しました。

コミュニティ貢献活動例
・井戸、池、排水路、広場、道などの掃除
・家庭菜園や植物の植え込み
・日用品、衛生用品の寄付　など

清掃活動をしている様子

VOICE ビジェイ・ベーラさん@マニプールコロニー

支援キットを受け取ることができて、とても嬉しいよ。コロナウイルス感染症の影響で、私たちの生活はとても厳しい。生きるために物乞いや寄付をもらいにも行けず、生活に支障を来しているから、この支援キットはとても助かる。私のように後遺症があるハンセン病快復者は、同じように大変な状況だと思うから、すべての弱い立場にある人々がこのような支援を受けられるように祈っているよ。

namaste! 運営メンバーインタビュー

namaste!つくば支部定例会にて

インドワークキャンプ団体namaste! つくば支部の運営メンバー3人にインタビューをしました！
1年を振り返り、どんな想いで活動していたのか、また今年度の抱負など、様々な話を聞いてみました。

今回インタビューした3人はこちら！
2021年度運営メンバー、
2022年度namaste!代表　　関根健史（たけし）
2021,2022年度運営メンバー　青木日花（にちか）
2021年度namaste!代表、
2022年度運営メンバー　　長峰朱良（じょん）
インタビュアー
わぴねすプロボノ　石田みずき（たまご）

活動への想い

ーじょんは中心メンバーとして、namaste!の価値観を次世代に伝えることを特に大切にしながら活動していた印象がある。なかなか1人では大変だったこともあると思うけど、どう？

じょん）個人的には大変だったなあという気持ちはあまりないですね。namaste!という団体が、コロニーの人たちだったり、自分以外の誰かの気持ちに寄り添って、その人のために活動できる場所であり続けてほしいなという想いで活動していました。これは自分1人では絶対考えられないことで、namaste!のメンバーが集まってこそ、こういう想いを持ち続けることができたと思います。namaste!のような、誰かに寄り添える人が集まる団体が存続していくことは、社会にも良い影響を与えると信じています。

たまご）にちかはプロジェクトを引っ張ってくれる存在だなと思った。

にちか）そうですね、コロナ禍でインドに行けない中で、国内活動を充実させたい！という気持ちはすごく強かったです。インドで活動できないから…といって諦めるのではなくて、何か新しいことができるんじゃないかって思っていました。

ーつくば市の小学校に訪問する「学校訪問PJ」は新たな取り組みだったよね。結果的に未実施で終わってしまったけど、次に繋がる学びは何かあった？

にちか）プロジェクトの進め方が身につきました。目標を設定したり、スケジュールを組んだり、プロジェクトを進める手順を学ぶことができました。あと、やっぱりモチベーションが大事だなということ。メンバー全員が「このプロジェクトを成功させるぞ！」っていう想いで活動することが、プロジェクトの進捗に直結するなと。教育指導案を作ったり、小学校へのアポイントメントを取ったりという作業がすごく早く進んだのは、メンバーが「つくば市の小学校で講義をする」というゴールを強くイメージできていたからこそのスピード感だったと思います。

ーみんなで1つの目標に向かって活動できたっていうのはすごくいい経験だと思う！

ーたけしはどんなことを考えながら活動していた？

たけし）活動するうえで大事にしていることはnamaste!の活動を存続させたいっていう気持ちです。インドに行けるようになったらnamaste!のメンバーがまたワークキャンプに行けるように（まだワークキャンプが再開できる見通しは立っていないけれど）今から準備していくことが活動のモチベーションになっています。

2021年度namaste!代表 じょん

ーたけしはまだインドに行ったことがないけど、namaste!の活動を継続させたいとか、ワークキャンプをやりたいって思う一番の理由は？

たけし）何だろう、先輩からインドでの活動について話を聞いたことですかね。じょんさんも言っていたけど、namaste!メンバーの、コロニーの人も含めた、他者と接する姿勢にすごく共感した。自分がインドに行ったらまずはコロニーの人とたくさん話して仲良くなりたい！

じょん）たけしは「情報収集PJ」を担当して過去のワークキャンプでの活動やコロニーの情報についてまとめていました。これは今後自分たちがインドで活動する時のために行っていたことですが、たけし自身の興味関心としてでもあったのかなと思います。

たけし）情報収集PJでは、過去の報告書を読み漁って、こんな事をしてたんだな～って知れるのが楽しかった。「川に灯籠を流して火事になりかけた」とか、そういう事故も含めて個人的には面白かったです。

たまご）みんなは真似しないでね。

たけし）情報収集PJを通して、実際に自分がコロニーに行ったらこんな事をするんだなとイメージできるようになりました。定例会では情報収集の結果を発表して、今後コロニーではどんな活動ができるか話し合ったりもしました。

定例会の様子

運営方針について

ー年度末の運営方針決めはどのように進めていた？

にちか）情報収集PJはある程度の期間続いていたけど、学校訪問PJと写真展は1回きりで終わってしまった。定例会の参加人数も少なく、来年度からは活動方針を変える必要がある、という問題意識から話し合いが始まりました。最初は自分たちが取り組んでいる社会問題に立ち返ったり、わぴねす・namaste!の活動理念を振り返ったり…。その結果、namaste!が取り組む「日本とインドのハンセン病問題」と自分たちの今の活動と照らし合わせると、定例会だけではカバーしきれていないという結論に至りました。

だから来年度はもっとプロジェクト活動を重視しなくてはと。特に、新しく入ってきたメンバーは全員プロジェクトに参加してもらえるようにしよう、と決めました。

国立ハンセン病資料館訪問

今年の活動テーマは？

にちか）①プロジェクト活動を本格化する②メンバーが主体的にプロジェクトを進める③情報共有。2021年度は運営メンバーが、団体運営に加えて、プロジェクトも進めるし定例会も進める、という状況だった。そうなると自分たちのキャパシティを超えて、進捗が悪くなったりして…。なので今年はメンバーが積極的に活動できるようにしていきたい。あと、運営メンバーと他のメンバー間で情報量に差があるので、定例会の内容をまとめたり、わぴねすとのミーティングを録画したり、参加できなかったメンバーにも情報が共有されるように心がけたいです。

来年度に向けた意気込みをどうぞ！

にちか）今は運営メンバーの私たちが中心となって活動しているけど、ゆくゆくは1年生、2年生のみんなを中心として活動していけるように引き継ぎたいです。

たけし）僕も引き継ぎは大事だと思っている。来年度はインドにも行けるかもしれないし、今後の活動を担っていってほしい。

2022年度namaste!代表 たけし

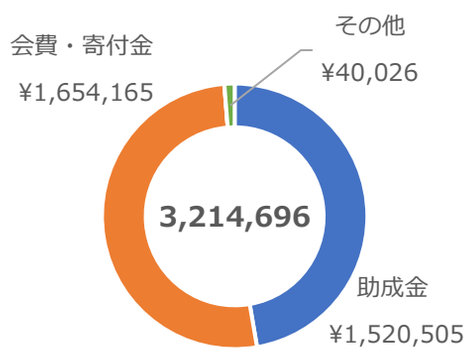
2022年度namaste!運営 にちか

NPO法人わぴねす団体概要

正式名称	特定非営利活動法人わぴねす
代表理事	酒井美和
現地協力団体	FPSA ALERT-INDIA Atma Swabhiman Goonj
事業形態	ワークキャンプ事業部 就労支援事業部 教育事業部
活動内容	マイノリティの社会的地位の向上及び尊厳の回復を目的として、インドハンセン病コロニーにてハンセン病問題解決のために活動を行なう
WEBサイト	NPO法人わぴねす https://wappiness.org インドワークキャンプ団体namaste! https://namaste.wappiness.org

2021年度収入

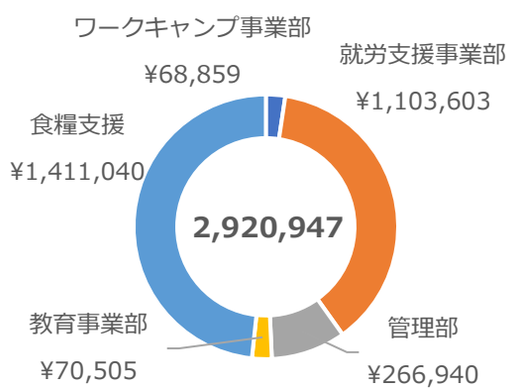
2021年度は2020年度に引き続きワークキャンプが実施できませんでした。ワークキャンプ関係の事業がないこと、また現地での活動も現状維持にとどまった為、助成金の獲得は就労支援事業のみとなっております。しかしながら、かめのり特別賞を受賞したことによる活動奨励金100万円、食糧支援PJによるクラウドファンディングなどがあったため、昨年よりも総収入が30%程度増加致しました。また、定期的な寄付金収入も増えてきており、今後の活動基盤の支えとなっております。



単位：円

2021年度支出

食糧支援PJを2020年度以上の規模で実施したこと、また就労支援におけるTOTOメンテナンス費用が増加したことで支出が増えております。教育事業部においては今期より始まった図書館PJがメインの支出内容となります。管理部門に関してはバーチャルオフィスの賃借料や会計ソフト、クラウド利用料、クレジットカード（寄付金）の決済手数料などが主な内訳となっております。
2022年度においては就労支援事業でのTOTOメンテナンス費用及び新規TOTO購入費用、ワークキャンプ事業におけるリサーチ費用などがメインの支出となる予定です。



単位：円

支援方法

クレジットカード

右記QRコードを読み取り、
HP上にて手続きをお願いいたします。

銀行振込

銀行名	ゆうちょ銀行
口座名義	特定非営利活動法人わぴねす
支店名	二〇八（ニゼロハチ）
預金種目	普通
口座番号	0538244